合同ＷＧ打ち合せ議事録（アプリケーションプログラム作成）

1994/09/13
資料2-9

日　時：1994年8月3日（水） 13:00～18:00
出席者：中山雅哉、高田広章、加藤朗、吉村伸、松方純、
　　　　神山一恵、吉沢文代、岡敦子、小島育夫
場　所：東京大学大型計算機センター３階大会議室

配布資料：
(1)プログラムへの要求
(2)IPアドレス取得申請書
(3)新規ドメイン名割り当て申請書
(4)JPNIC登録フォームの記入例
(5)SWIP テンプレート(a Single Network /a Block of Networks)

議　事：

◆0 プログラム作成の動機とWHOISの課題
・著作権の問題より、書き変える必要がある。
・プログラムの陳腐化。
・作業スタッフの負荷を軽減したい。
・whois のレスポンスが低く検討が必要。

◆1 APNIC,InterNIC,delegation,rwhois(SWIP)との関係

現状での上下組織との関係を以下に示す。
<<別途>>

・SWIPのインタフェイスは用意しておく
・rwhoisはregistry only とし、white pageとは切り離す
・NSP(Network Service Provider)がDBを持った方が検索は早いだろうが、
　JPNICでデータベースを持つべき。

◆2 ユーザインタフェース

●電子化されていない媒体の扱いについて（FAX,郵政メール）
・代書屋（申請代行）をJPNICで紹介するのがよいのでは？
（IIJなどは行っている）
・FDで提出してもらう？　…結構手間がかかる。パーザーを配布しても
　　　　　　　　　　　　　バージョンアップへの対応が困難
・将来的にはE-mailに一本化する方向で検討する

●E-mail申請のエラー処理
・申請書にエラーが多く困っている。
対処案
(a)Check Program　…配布する。バージョンアップが困難。
(b)自動化
(c)Check 窓口　…窓口通過分のみを受け付けるようにしては？
(d)端末インタフェイス　…漢字コード問題などもある。当面は止める。

●認証（確認）問題
・updateに関して
　→確認メールを、関係者（新／旧連絡担当者）に送り確認する
　　組織内のトラブルに巻き込まれないよう注意する。

●AS番号について
・当面は管理しなくていい
・AS番号用のドキュメントは不要

◆3 作業スタッフのインタフェイス

・現在は割り当て業務のアカウントを作り、loginして行っている。
　…複数人数が作業できるとき、誰が変更したかなどが不明になってしまう。
　→当面はloginで行う。あとは、WG内で対処する。

◆4 言語問題

JPNICに転送されてくる申請のとき、
・申請フォームが異なるので、書き直して下さいとお願いする。
・日本の住所などは日本語で書いて欲しい。
・ただし、外国人の名前までカタカナにする必要はない。

◆5 レコード構成／データベース

・最低限の登録項目を小島さんが作成する
・それに対して、各ＷＧが自分独自に必要な項目を追加する
・データの共有を考えると、DBと各WGのインタフェイスがそろうとよい

●NICハンドルについて
・未参照ハンドル削除のためのGabbageCollectionに時間がかかっている
　…参照されていないハンドルを予めリストアップしておき、GCすれば早くな
　　るのでは。
・JPNICのハンドルは
　　　xxxxx-JP
　の形式とする。頭にJPがついていたものについては、頭のJPを削除する。

●SWIPへの対応
・現在欠けている項目を追加する　→小島

◆6 使うシステム
[現　状] Oracleを用いている。２０秒以上かかることもある
[要求条件] ３秒（遅くても５秒まで）で検索結果を返せる
[他のNIC] RIPEでは、　Perl + DBM
　　　　　InterNICでは、　WAIS

・DBシステムを調査する　→中山
・当面は、オプションを指定し検索の高速化をはかる
　…まず、クライアント側でテストする　→加藤

◆その他
・IPアドレスの割り当て基準はRFC1466に沿って行う。
・返却されたIPアドレスは、ある程度たまってから行う。
　（より細かい割り当ては行わない）